

双三郡三和町全景



第6号

昭和50年3月31日

発行人 野村節也
編集人 永井又太郎
印刷所 印刷所
広島県双三郡吉舎町
佐々木印刷株式会社

就任の辞



会長 野村節也

このたび、はからずも医師会長という非常に重要な職責を与えられ、今更ながら責任の重大さを痛感しています。

得能前会長には十数年という長い期間、当地区医師会発展のために御尽力下さり、数々の業績を残されました。そのためには色々御苦労もあつたことと思ひ、心から敬意を表すものであります。

国の内外は、一昨年の石油危機を契機として新しい試練に直面し、物価高と不況、政治に対する不信感等、重要な課題が山積してあります。医政問題においても統制低廉費制度の下におかれており、一昨年二度診療報酬が改正されましたが、狂乱物価と人件費の高騰で、病院の経営は多大な困難に陥っている状態です。又、租税特別措置の問題も必ずや再燃することと思われまふ。

このような局面に対処するためには、会員相互の人間関係の調和をはかり、協力的体制の強化を確立することがより重要なことと考えられます。会員相互の調和の絆をなすものは、お互いの理解と信頼にあると思ひます。この精神をもって我々医師の使命感を自覚し、あらゆる困難を克服し、生命を尊び、医学の研修に励みたいと思ひます。

最近、石田、小川両先生には病に倒れられ、目下療養に専念されています。どうか各会員には、平素より健康管理に特に意を注がれるよう切に願ひします。

最後に今後の方針として、検査センターをより以上に充実させ、又、緊急医療センター設置のために各方面へ協力を依頼して、出来るだけ早い時期に実現するよう努力してみたいと考えています。

甚だ微力ではありますが、医師会の発展のために会員皆様様方の御協力を切に願ひ申し上げます。就任の言葉と致します。

炉辺瞑想



副会長 鳴戸謙隆

このたび、野村会長の補佐として、再び双三地区医師会の副会長の重責を与えられ、会員諸先生の世話役をつとめることになりました。

顧みれば、過去五年間、私は私なりに一生けん命努力した積りでございませうが、不徳のいたすところ、至らぬ点が多々あったことと思われまふ。医師会を憶う誠意の一端としてのことと御理解いただければ幸甚に存じます。

最近のマスコミ、及び社会一般は、医師に対する反感が相当に強いように思われます。これについては種々の原因があり、同時に医師自ら謙虚に反省すべき余地もあると考へねばなりません。

私が常々考へているのは、今日生命保持はすべて医師の責任であるごとく社会一般で考へ、医師に対し厳しい義務を負わされています。救急医療、医療過誤等、我々開業医には手に余ることが多いと思ひます。これを如何に解決すべきかが、最も重大な問題であります。

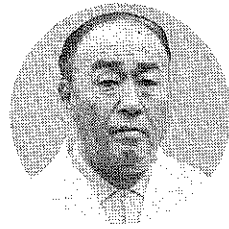
医師になった以上、ある程度の負担は覚悟しなければなりません。しかし、医師はこのように一生けん命努力している真相を地域住民に理解せしめ、救急医療対策の万全を期するために努力したいと思ひます。

このため、会員諸先生の医師活動に対する御意見を求めたいと思ひます。又、税制、地域医療、救急医療等に対する諸施策は、日本医師会、県医師会の上部団体においてその方針は決定され、一方進行的に下部に流されてくる現状では、強力な意志の疎通に欠け、一笛吹けども踊らずの認識に陥る危険性が多分に存在するものと考えられます。

その意味において、少なくとも双三地区医師会には、各会員個々の

意見、提案を常々結集することにとつとめ、十分討議を重ね、その最大公約数のもとに方針を決定し、計画、実践に移すことが最も堅実な方途と考えますが故に、適宜諸先生方の御意見を拝聴したり、アンケートもとり、今後できる限り会員全般の意志をくみとり運営にあたりたいと存じます。

どうか、会員諸先生の執行部に對し、直接、或いは巴杏にでも御投稿いただき、御教示、御協力下さいますようお願い申し上げます。



副会長
高場 賢治

今回はからずも副会長に就任致しました。甚だ微力ではありますが、野村会長を中心に会員一同結束して、双三地区医師会が益々発展して行きますよう、努力する覚悟でございますので、会員諸先生方の御助言、御協力をお願い申し上げます。

私の担当は、学校医、産業医、広報、公衆衛生となっておりますが、学校医部会と学校保健会との繋り一つにしても、仲々難しい問題もあり、学校保健を地対協の一環として推進するという県医師会の確固たる方針に全面的に協力して行かなければならないと考えております。

会員相互の友和と団結によって

地域医療向上の実が一層あがる事を祈念して止みません。

学会だより

救急蘇生法の現況

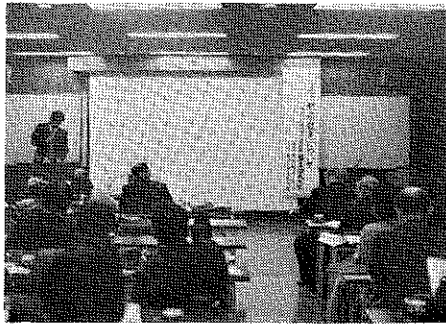
広島大学医学部麻酔学教室

盛生 倫夫 教授

心肺蘇生法に関しては、当日会場配布した世界麻酔学連合編心肺蘇生法テキストを参考された。

救急蘇生のABCは、できるだけ速やかに(A)気道を確保し(Air way)(B)呼吸が停止又は抑制されておれば、補助或いは調節呼吸を行う(Breathing)(C)最大血圧が70mmHg以下に低下しておれば80-100mmHgに保ち、継続的に観視し、心搏停止或いは脈搏が触れず死の様相を呈しておれば、直ちに体外心マッサージを行い、心搏再開のための努力を行う(Circulation)。

I、呼吸不全及びその処置



- (1) 吸気中に酸素が不足した場合(例・密室) 先ず酸素による補助呼吸を行う。意識が明瞭であれば、その状態で観察、脳浮腫を防ぐ目的で副腎皮質ホルモンを投与、意識が混沌しておれば、循環不全の有無を調べ、高濃度酸素を与える。更に脳血流量を確保し、酸素需要を少なくし脳浮腫を予防するために副腎皮質ホルモンの大量投与と頭部冷却を行う。
- (2) 気道狭窄又は閉塞のある場合(例・気管内異物・喘息) 呼吸数が少なく、一回換気量が大きいのが特徴で、Paco₂が上昇しているために呼吸困難が強い。意識が明瞭であれば一応代償されていると考えられ、高濃度の酸素によって補助呼吸を行なう。呼吸停止或いはひどく減弱すれば、気管内挿管又は気管切開によって調節呼吸する他湿度を与えて分泌物を柔かくして度々吸引除去する。
- (3) 換気容量が減少した場合(例・肺炎 Myasthenia Gravis) 呼吸数が速い。呼吸面積を広げる目的でIPPB(間歇的陽圧呼吸)が必要である。その際、無気肺から回復することにより分泌物が出て来る。自ら咳出できないときは気管切開により長期に呼吸を管理する必要がある。CDDP-choline は肺表面

活性をよくし、中叔にも動くといわれているので、無気肺からの回復過程に1-5Aを点滴静注する。

(4) 肺胞-肺毛細血管の拡散障害のある場合(例・肺線維症・肺浮腫) 程度が軽ければ高濃度の酸素吸入だけでよい。Paco₂が上昇している場合は、酸素吸入だけでは不十分でIPPBなどの陽圧呼吸を行う。

(5) 貧血が強い、一酸化炭素中毒などで酸素を運ぶ能力が失われた場合(貧血が強ければ輸血を、重症の一酸化炭素中毒では高圧酸素が交換輸血の必要があるが、救急的には高濃度酸素を与え、脳の酸素需要を抑制するために鎮静剤の投与と頭部及び全身の冷却を行う)。

- (6) 組織の酸素需要が増大した場合(例・甲状腺中毒) 高濃度酸素を与え、酸素需要を抑制するために鎮静剤を使用した後、全身を冷却し、直腸温を計測しながら、必要があればルゴール氏液15-30滴を静注する。
- (7) 循環不全により酸素が運べない場合 先ず補助呼吸、調節呼吸と共に、分泌物を吸引したり気管内挿管などの機械的な処置を必要とし、併せて酸塩基平衡の補正(重炭酸ソーダの投与)や副腎皮質ホルモン、気管支拡張剤(アロテック噴霧)や去痰剤(アセチルシステイン・ピソルポンの噴霧)の投与を行う。

II、循環不全及びその処置

- (1) 心臓に原因があつて、心拍出量が減少した場合(例・心筋梗塞) 高濃度酸素の吸入が必要である。収縮期、血圧が80-100mmHg

新 広域合成ペニシリン

パセトシン[®]

カプセル 細粒

「日抗基」アモキシシリン製剤

薬価 ■125mgカプセル137.40 ・250mgカプセル268.00
■細粒1g 197.60

協和醸酵 特許許諾 英国ビーチャム社

抗動脈硬化剤
抗キニン性・抗遅延型炎症反応因子性
血管透過性亢進阻止剤

ANGININ

BANYU PHARMACEUTICAL CO., LTD

に保たれており、末梢に強いチアノーゼがなければ酸素吸入のみで観視する。心筋梗塞の新鮮例では進行して悪化する場合があります。広範囲の心筋梗塞では予後は悪いが、救命し得るものである。インプロロテノールを微量点滴にて持続注入すると共にハイドロコルチゾンの大量投与することによって、梗塞部位に対する膜の安定性と末梢血管拡張を期待する。インプロテノールを使用するときは、心电图のモニターと、除細動器の用意を始める。不整脈でも脈が触れ、高血圧の時は、一劣キシロカイン5mlを静注することがある。

(2)出血や脱水などによって血管内溶液が減少した場合(例)出血、激しい下痢)出血に対しては輸血が必要である。しかし乳酸カリウムゲルを多量に使用すれば、輸血の血液量を節約でき、輸血の副作用を減らすことができる。デキストラン等の代用血漿は過量とならないように使用する。一旦出血シヨックになった後に、輸血やリンゲル、代用血漿を過量に補っても血圧は必ずしも回復しない。これは末梢血管の透過性の昇進や、代謝性アシドーシスによるため酸塩基平衡の補正(重炭酸ソーダの投与)が必要であり、拡大した血管床に対しては、やや大量の輸液を(CVPを監視しながら)与える必要がある。回復期には早期より導尿して利尿剤(マンニトール・ラシックス)を使用し、輸液を制限する。

(3)薬物アレルギーなどによりヒスタミンが遊離され、尿管が拡張した場合(例・薬物ショック)早期であればカルニゲン等の末梢血管収縮剤が有効に作用し、血圧を回

復させるが時間がたつと共に末梢血管透過性の昇進と代謝性アシドーシスのために効果が悪くなる。呼吸抑制を伴っていることが多いので酸素吸入或いは補助呼吸が必要である。副腎皮質ホルモン的大量、抗ヒスタミン剤の投与と共に酸塩基平衡の補正と拡大した血管



森増治人 先生



住所 双三郡作木村 (明43・3・17生)

- 昭7・3・20 京城医学専門学校卒
 - 昭7・4・昭9・11 京城医学専門学校勤務
 - 昭9・11・昭15・2 朝鮮元山結核療養所勤務
 - 昭15・2・昭17・2 釜山鉄道病院勤務
 - 昭17・3・昭20・6 佐賀県鳥栖結核療養所長
 - 昭20・9・昭40・5 高田郡高宮町で開業
 - 昭40・6・現在 双三郡作木村で開業
- 家族
- 妻 昭47・3・11死亡
 - 長女 東京
 - 次女 齊藤憲先生に嫁す
 - 三男 広島日産サニーク勤務
 - 四男 北九州市 会社勤務
- 先生は昭和四十七年奥さんと死別。昭和四十七年七月水害。

高場博之 先生



大正二年五月二十四日生

- 住所 双三郡三良坂町一三三八
 - 昭和医専卒 東京市電気局病院
 - 東京同愛病院 一応召一広島赤十字病院 一現在地開業(昭和二十二年)
 - 家族 妻 高場豊子 帝国女子医専卒 一東大眼科 一現在地開業
 - 長男 利博 外科医
 - 次男 誠司 内科医
- 現在妻と二人暮らし
- 妻の心境
- 数々の尊きおしえ胸に秘め 残る余生をひたに励まん
- 所感
- 終戦後三十年、過ぎ去りし記憶を反省しますと、支那事変参加と終戦の原因となった原爆を受けた事が思い出されます。昭和十三年応召され中北南支と満州とを転戦し足掛け七年間も過しましたが、その間二度も弾の下を潜りましたが、私には早寝早起きの習慣があるので、八日六日は朝七時前に空襲警報が鳴り、解除後に日赤耳鼻科外

床を元にもどすための努力と大量の乳酸カリウムゲルの投与が必要である。回復期には利尿がなければ導尿して利尿剤を投与する。

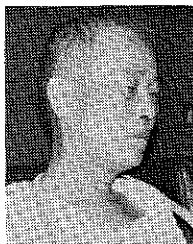
(4)脊髄麻酔、迷走神経反射などの神経性に尿管が拡張した場合(例・眼球圧迫)交感神経がブロックされているので老人など代償機能

の不十分な人では、血圧が六〇Hg以下に下り心停止に至ることがある。一旦ショックになると、その処置は前項と同様である。

(5)低酸素症により、中枢神経感いは心臓が抑制された場合、低酸素血症によって中枢神経或いは心臓が抑制された場合は重篤である。中

来で診察開始後、突然五〇m位前方にピカッと光ったので直撃弾が落ちたのかと思ひ、急に右へ換えた瞬間に硝子片で左側顔頸部及び脊部に負傷し、脊部の痲痕と頸部の硝子片は記念のものとなりました。その時治療中の患者は額帯鏡の反射にて火傷したのが後刻判りました。その後看護婦が喉頭部に五〇位の硝子片が入り、発語不能で摘出手術をした経験があります。が、今如何過ぎておられる事や、当時の竹内院長は先年他界され、副院長重藤先生は院長として原爆等に活躍、貢献されておられました。三月末には辞任され、時代かなと感じる次第です。

野島 宏 先生



歌日記

もう十数年にもなるか。愚妻が三次町の短歌教室に通い始め、傍で歌作しているうちに私に何かと誘うようになった。私に仲間入りするようになった。和歌教室は週一回、夜八時頃から催されたが、私は早寝早起きの習慣があるので出席しなかつたが、日誌の中に時々書き入れた。二十年も前のことであろうか。

枢神経の抑制の程度は意識の状態を観察し判断する。低酸素症の原因を発見することは重要であるが、たちまちには酸素の吸入と補助呼吸、静脈確保(興奮して動くのでエラストアーなど)により、リンゲル液の点滴、収縮期血圧の維持、副腎皮質ホルモンの投与が重要である。

で、私の家に原稿集めにお出での節いろいろと教えていただいた。間もなく同人雑誌「くれない」が復刊され、三次町の歌会に花が咲いたように思われた。谷岡老先生の御内室の詩情豊かなお歌もその中にみられ、有名な中村憲吉先生の伝統であろうか、秀れた歌人の多いことは私にとって驚きでもあり嬉しいことであった。「くれない」の中から自分の拙い歌を拾ってみた。

イタリア旅行

雲海をはるか眼下にジェット機は煩き世を今は逃れて 岩肌を雪をいたたく八月のアルプスはホテルの頭上にそびゆ いづくにも歴史は匂うイタリアの名も知らぬ町に我等いこいし イタリアに墨絵を見たりドミニ テイ崖下はるかに古城かすめり

雑詠

朱珠の美を何に喩えん南天の 実ほ輝きぬ方丈の庭に 雪の夜に初対面の蟋蟀は手を 差し伸べし我を怖れず 若葉燃ゆ山に野に我が狭庭に 音立てて命はたぎるかに 生きてゐてよかりしと思ふ新 緑の山は芽え芽え雨はあがりぬ

次は家内の作歌

急患を告ぐる電話の鳴りひびき我が家の新しき年は始まる 往診の夫を送れる門に佇ち夜 半の寒気に暫し耐えおり L.P.の交響曲も最中にて急患 訪う夫愈うなく この頃ステレオは未だ我が家になかつた。二十年も前のこと であろうか。

双三地区医師会定期総会概要報告

永井 又太郎

去る二月二十六日、環翠楼本店に於いて、昭和四十九年度双三地区医師会定期総会が開催された。会員八十二名中五十二名出席という盛会裏の内に始められたが、例年の如く型通り。

(1)第一号議案 昭和四十九年度一般会計歳入・歳出概算報告承認を求むる件。

(2)第二号議案 昭和四十九年度検査センター歳入・歳出概要報告承認を求むる件。

(3)会計監査報告 何れも満場一致で承認。

(4)第三号議案 昭和五十年年度一般会計歳入・歳出予算に関する件。

(5)第四号議案 昭和五十年年度検査センター歳入・歳出予算に関する件。

何れも満場一致で承認。

続いて渡辺三次保健所長の麻薬の取扱いについて等の話があり、役員改選に入った。その結果、大異動があり昭和五十年年度役員は次の通り決定した。

会長 野村節也
副会長 鳴戸謙隆、高場賢治
理事 津島治雄、中村知己、田中恭生、永井又太郎、長船元昭、藤谷博義、板橋守、三浦康弘、岡崎邦之、箕岡源一
議長 荒瀬秀隆
副議長 小川泉二
監事 吉光力、大谷直樹、岸田久尚、詳細については、広島県医師会速報昭和五十年四月五日発行第八一九号二十二頁に掲載済みの為、御参照下さい。

以上をもって定期総会の概要は終わります。

医師会だより



(昭和四十九年十二月、昭和五十年三月)

- 12月16日(月)・12月17日(火) 検査センター職員健康診断、於、鳴戸医院。
- 12月19日(木) 特別委員会。職員給与改訂の件。於、鳴戸医院。
- 午後五時〜七時 得能会長、鳴戸・荒瀬副会長、永井・長船副理事出席。
- 昭和四十九年度、合同役員会於、嵯峨。午後七時〜十時。
- 1月7日(火) 医師会館庭アスファルト舗装。日本舗道請負い経費一〇〇万円。
- 1月9日(木) 石田嘉邦先生(吉倉町)脳検査で双三中央病院入院加療中。
- 1月27日(月) 近藤美登里先生御母堂葬儀。
- 1月30日(木) 学術講演会。午後三時。於、双三地区医師会館。藤沢薬品工業株式会社後援

演題と講師

「救命救急について」
広大麻酔科教授 盛生倫夫先生。

- 2月18日(火) 昭和四十九年度監事会。出席者 吉光・大谷副監事、得能会長、永井・長船副理事、柏村顧問税理士。
- 生活保護嘱託医協議会。於、広島市。
- 鳴戸・荒瀬副会長出席。
- 2月20日(木) 理事会(総会对策、四十九年度決算検討。五十年予算案立案)。
- 2月22日(土) 地区地域保健対策協議会結成打合せ会。於、広島医師会館。岡部理事出席。
- 公衆衛生、学校医及び産業界担当理事連絡協議会。於、広島医師会館。
- 岡部・津島・重信各担当理事出席。
- 2月23日(日) 林千鶴先生御母堂葬儀。
- 2月25日(火) 森増治人先生(作木村)胃潰瘍の為、双三中央病院入院。手術。三月三日退院。
- 2月26日(水) 昭和四十九年度、双三地区医師会総会。於、環翠楼。
- 十五時〜十六時、三次税務署確定申告についての説明会。
- 十六時三十分〜二十時、総会。懇親会。
- 2月27日(木) 第三回県下臨床検査センター協議会。於、広島医師会館。
- 永井理事、土岡所長、中西事務

長出席。
3月1日(土) 社保保険三者懇談会(社保事務所、医療担当者事業主)。鳴戸副会長出席。

- 3月18日(火) 新役員による理事会。3月21日(金) 代議員会。
- 野村会長、鳴戸副会長出席。
- 3月25日(火) 有信敬一先生御尊父葬儀。
- 3月26日(水) 第八回「巴杏」編集委員会。「巴杏」第六号発行について。出席者 高場副会長、田中・永井・岡崎・箕岡・藤谷各委員。
- 小川泉先生(三次市十日市町)脳検査で双三中央病院に入院加療中、経過順調。(永井記)

編集後記



尾関山の桜花も散り、ツツジ・サツキが満開の季節となりました。「巴杏」の編集発行が随分遅れ誠に申し訳なく思います。新年度に入り、野村新会長を迎えて新しいスタッフでスタート台に立った今、全力を尽して会員各位の親睦と友愛の絆としてこの「巴杏」が益々発展するよう一層の御協力をお願いして止みません。この度は新会長・副会長の抱負を掲載させて頂きました。又、広大麻薬科、盛生教授より特別な御寄稿を頂いた事に対しまして、衷心より厚く御礼申し上げます。

「春眠覚えず」とか、人生は細く長く焦らずに、お互いに頑張りて行きましょう。

(永井記)

消化器系鎮痛・鎮痙剤 Daipin

上腹部痛に制酸剤の効果持続に...

ダイピン錠

一般名 N-メチルニコチン・メチル 硫酸塩 識別番号 106

第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

CERM社リボム・フランス製特品

鎮痛・抗炎症剤

ノンフラミン® カプセル

一般名 = 塩酸チノリジン (単位当り) ¥28.00

製造 = 吉富製薬株式会社
販売 = 武田薬品工業株式会社